

三重県知事のベトナム・タイ訪問（1月17日）の概要について

一見知事は、1月17日（金）にベトナムからタイに移動し、本県とタイの産業連携の推進のため、「三重県ビジネスセミナー及びビジネスマッチング」を実施しました。また、「JNTO（日本政府観光局）バンコク事務所」を訪問し、本県へのさらなるインバウンド誘客に向けた意見交換を行ったほか、駐タイ日本国大使と対談し、タイ向けのインバウンドや県産品輸出の取組に関して意見交換を行いました。

1 三重県ビジネスセミナー及びビジネスマッチング

(1) 場 所 ホテル・ニッコー・バンコク（バンコク市内）

(2) 出席者

(来賓) タイ工業省産業振興局（DIPROM）

副局長 ドゥアンダーオ・カーオジャルーン

タイ投資委員会（BOI）

上級エグゼクティブ投資顧問 スターシニー・サミット

(タイ企業) 11社

(三重県) 知事 一見 勝之

雇用経済部長 松下 功一 ほか

(経済団) 三重県商工会議所連合会 会長 伊藤 歳恭 ほか

(市町) 桑名市副市長 水谷 準 ほか

(3) 概要

- ① 本県とタイの産業連携の推進のため、本県と覚書（MOU）を締結しているタイ工業省産業振興局（DIPROM）及びタイ投資委員会（BOI）の協力を得て、三重県ビジネスセミナー及びビジネスマッチングを開催しました。
- ② 政府機関関係者、事業者を含むタイ側 29 名が参加するなか、一見知事は、「三重県は製造業が集積している一方で、豊かな自然に囲まれ農林水産物も豊かな地域。タイは三重県にとって非常に重要なパートナーであり、今後も引き続き連携を強化していきたい。」旨述べ、三重県の産業の PR を行いました。
- ③ ドゥアンダーオ副局長からは、「DIPROM と三重県は、2015 年に MOU を締結し、2018 年には三重タイイノベーションセンターが開所するなど、双方の企業の高度化に寄与してきた。今年は MOU 締結 10 周年となる重要な節目の年である。今回のセミナーは、DIPROM と三重県の関係性をさらに強化する重要な取組であり、双方の行政や企業が新たな協力関係を構築するものである。現在、DIPROM ではマクロ的な課題に対応するための方針を策定中である。近代的で透明性の

ある産業改革や持続可能な産業振興を目指しており、これは双方の企業の成長にも寄与するものである。本日のセミナーをきっかけに、双方の協力関係がさらに深まることを期待している。」旨述べられました。

- ④ スターシニー上級エグゼクティブ投資顧問からは、「三重県とタイの関係は、産業、文化、観光など様々な面で良好である。特に産業面に関して、BOI では2013年に三重県とMOUを締結し、これをきっかけに情報交換や企業への支援などを行い、双方の緊密な関係が続いてきた。三重県の企業は高い技術を持っており、アジアを成長に導くことができる。本日のセミナーは、三重県の企業がタイの企業と出会う重要な場であり、タイへの投資拡大にもつながるものである。既に三重県からは30社以上が投資いただいているが、今後も様々な分野で三重県の企業がタイにおいて重要な役割を担っていただけることを望んでいる。本日のセミナーには知事自ら参加いただいております、タイを大切に思っていることを感謝している。今後も、より有益な取組の推進に努めていきたい。」旨述べられました。
- ⑤ 経済団団長の三重県商工会議所連合会 伊藤会長からは、「海外ビジネスへの取組は継続が非常に重要。知事が2年連続でタイを訪問して産業連携の取組を行っていることは、タイが三重県の重要なパートナーであることを示している。今回、ビジネスマッチングに参加する三重県企業はそれぞれ特徴的な技術・製品を持っており、このビジネスマッチングが三重県とタイの双方の事業者にとって実りのある場となることを期待する。」旨述べられました。
- ⑥ ビジネスセミナーに引き続き行われたビジネスマッチングでは、県内企業6社とタイ事業者11社が合計18件の商談を行いました。マッチングに参加した県内企業からは「タイ事業者と良い商談が出来た。」、「三重県内の工場へ視察に来る可能性を感じた。」、「現地のものづくりを知ることができ刺激になった。今後の事業展開に期待が出来る。」などの声がありました。



(一見知事の冒頭挨拶)



(ドゥアンダーオ副局長の来賓挨拶)



(一見知事のプレゼンテーションの様子)



(ビジネスマッチングの様子)



(三重県商工会議所連合会
伊藤会長（経済団長）の挨拶)

2 JNTO（日本政府観光局）バンコク事務所 訪問

(1) 場所 JNTO（日本政府観光局）バンコク事務所（バンコク市内）

(2) 出席者

(相手方) JNTO（日本政府観光局）バンコク事務所

所長 中杉 元 ほか

(三重県) 知事 一見 勝之

観光部 次長 伊藤 光明 ほか

(市町) 桑名市 副市長 水谷 準 ほか

(県内観光事業者)

公益社団法人三重県観光連盟 事務局長 山岡 克樹 ほか

株式会社御木本真珠島 取締役 柴原 昇

(三重県観光連盟インバウンド委員会 委員長)

(3) 概要

- ① 一見知事は、タイからの訪日インバウンド誘客を実施する JNTO（日本政府観光局）バンコク事務所を訪問し、タイの訪日旅行事情に関してブリーフィングを受けるとともに、本県へのインバウンド誘客に向けた意見交換を行いました。
- ② 中杉所長は、ブリーフィングにおいて「タイ市場では、日本は変わらず人気 NO.1 の目的地。東アジア同様の成熟市場でありリピーターが多いため、未知の目的地や他のエリアでは見られないコンテンツ、写真映えスポット等が求めら

れている。」旨述べられました。

- ③ 意見交換において、一見知事から「タイ市場では、訪問先を選択する際に象徴的なモニュメントが重視されるのか、またインフルエンサーはどの程度役割を果たしているのか。」と質問したところ、中杉所長より、「例えば上高地は、タイでは見られないような素晴らしい映え写真をインフルエンサーが広めたことにより、今ではタイでも最も人気のある観光地のひとつとなった。また、タイ市場では複雑な説明は好まれない、端的に他と差別化できる点をPRするほうが望ましい。」と回答いただきました。そのほか、中杉所長より、三重県のコンテンツについて、「産業観光はインセンティブツアーの訪問先として魅力的。言語対応や手配の対応ができる点をもっと広めていくと良いと思う。忍者はタイでも人気が高く有効なコンテンツになる。歴史文化の側面よりエンタメやパフォーマンスの面を打ち出した方が良い。」と述べられました。



(ブリーフィングの様子)



(記念撮影 左から御木本真珠島 柴原取締役(三重県観光連盟インバウンド委員会委員長)、一見知事、JNTOバンコク事務所中杉所長、桑名市 水谷副市長、三重県観光連盟 山岡事務局長)

3 駐タイ日本国特命全権大使との意見交換

(1) 場所 オークラ プレスステージ バンコク (バンコク市内)

(2) 出席者

(相手方) 在タイ日本国大使館

駐タイ日本国特命全権大使 大鷹 正人 ほか

(三重県) 知事 一見 勝之

雇用経済部長 松下 功一

(経済団) 三重県商工会議所連合会

会長 伊藤 歳恭

三重県中小企業団体中央会

会長 三林 憲忠

(3) 概要

- ① 在タイ日本国大使館主催のもと、大鷹大使や県内経済関係者と本県とタイの関係について意見交換を実施しました。
- ② 一見知事は、タイ向けのインバウンドや県産品輸出の取組に関して、タイ人の嗜好の傾向について意見を求めたところ、大鷹大使は、「タイでは、アロマなど香りを嗜む人が多い。伊勢茶を売り込むのであれば、香りの良さを引き出し、それをアピールしてはどうか。」「県産品の売り込みには、タイの財閥系の資本が入った大手のデパートなどを活用してはどうか。」等、述べられました。